



表紙写真／4月、新学科の実践社会学科の学生と教員が、宇治市総合野外活動センター・アクトパル宇治にて実施された「フレッシューズオリエンテーション」に参加しました。4年間の学びやキャンパス生活をより充実したものとするため、グループワークやワークショップなどを通じて、相互の親睦をはかりました。

INDEX

学長よりご挨拶／教育後援会会長よりご挨拶／就職部 就職進路課より／学生部 学生課より／
社会連携部 フィールドリサーチオフィスより／教務部 大学教務課より／図書館だより／
京都文教大学INFORMATION／事務局お問い合わせ先一覧／
教育後援会事業計画／教育後援会役員会議事録／教育後援会総会／教育後援会役員名簿／
大学役職者一覧／教育後援会決算報告／教育後援会予算報告／教育後援会規約

学長よりご挨拶

平素より、京都文教大学の教育・研究活動に格別のご理解とご協力を頂戴しておりますことに、大学を代表して深く感謝を申し上げます。

今年度は、京都文教学園が、創立120周年を迎えます。当時、まだ十分ではなかった女子への教育機会の提供を目指して、1904（明治37）年に創設された高等家政女学校がその始まりです。戦後、中学校・高等学校、1960年には短期大学、その後幼稚園、小学校を開設しました。大学は、1996（平成8）年に宇治キャンパスに開学し今年度で28年目となり、卒業生も1万人を超えました。このニューズレターを読んで頂いている皆様の中には、本学園の同窓生として永く学園を支えて頂いている方もいらっしゃるのではないかと思います。あたたかなご縁に、重ねて感謝を申し上げます。

現在、社会の状況は大きく変動しており、それは激動する国際情勢のみならず、日本社会の経済や産業の状況、さらには人々が暮らす地域や組織での人間関係にも及びます。その中で、予測のつかない事態の発生やこれまでの知見だけでは対応できない出来事も多く、一人ひとりの不安やストレスが高まってしまうことも避けられません。

ただ、この「VUCAの時代（Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）」）とよばれる時代は、これからの世界の変革の時期に当たっているのかもしれませんが。その意味では、そのような変動の時代を乗り越え、これからの未来を生み出すために、大学での学びや経験の重要性は一層増しています。専門的な知識の修得はもちろんのこと、それらの知識を活用して、より具体的に様々な課題に対応していける総合的な能力を身に付けていくことが求められています。

このような能力を身に付けるためには、様々な社会的な体験を通じた学びが必須になります。本学では、正課・正課外を問わず、在学中から、企業・自治体・教育機関・医療機関・福祉団体などと連携した学習機会を数多く準備しています。建学の理念である「四弘誓願（しくごいがん）＝ともいき」の精神に基づき、「地域まるごとともいきキャンパス」で一人ひとりに応じたリアルな体験を積んでもらうことで、自分自身の興味関心と出会い、将来の可能性を広げてもらいたいと願っています。

とはいえ、リアルな経験を重ねる際には、全てがすぐに上手くいくとも限りません。むしろ新たなチャレンジには失敗はつきものです。それらのチャレンジや挫折から学んでいくことこそが、将来の様々な困難に対峙できる能力を磨くことに繋がります。そのために本学では、少人数のゼミ教育を重視し、ゼミ教員が「担任」として学習上の相談にも向き合う「アカデミック・

アドバイジング」制度を設け、手厚いサポートを目指しています。日頃の学習や就職・進路、生活上の相談など、担任を中心として教職員や学内外の専門家が協力して取り組んでいます。

さらに、より一層社会のニーズに対応した学びと進路を提供するために、2025年4月より総合社会学部総合社会学科に「公務員コース」「食マネジメントコース」「スポーツ・健康コース」を新設し、3学部4学科13コース、1研究科の体制で教育を推進します。全ての学科の学びにおいて、社会での具体的な学びの経験となる実習やプロジェクト型の科目や活動を積極的に設定しています。さらに、学生たちの経験を将来の大学院への進学や就職活動に生かすための課外講座や資格試験対策講座の開催や、個別ニーズに応じたサポートにも力をいれています。これらの活動が継続できているのは、教育後援会の皆様のお力添えのおかげです。

どうぞ、色々なご意見をお寄せ頂き、協力しながら、学生さん一人ひとりの成長を実現していければと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

京都文教大学 学長 森 正美



教育後援会会長よりご挨拶

京都文教大学教育後援会の会員の皆様におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本会活動に対し、ご理解とご協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。京都文教大学教育後援会総会において、会長に就任いたしました勝田麻友と申します。会員の皆様方のご協力を賜りながら、努めさせていただきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

今年4月には総合社会学部に「実践社会学科」が新しく誕生し、新入生を迎えました。先輩方がいない分、自分たちが主となって考え、自由な発想のもと、のびのびと大いに勉強に励んでいただきたいと思います。

学生生活は楽しいことばかりではなく、時には困難なことにぶつかる、悩むことが多い時期かもしれませんが、共に学ば仲間との絆も深まる人生の輝く時期でもあります。教育後援会では、学生生活を社会に飛び立つ準備の大事な時期と考え、就職活動や進学、課外活動など、皆様とともにサポートをしてまいりたいと存じます。ご協力のほど、お願い申し上げます。最後になりましたが、皆様のご多幸を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

京都文教大学教育後援会 会長 勝田 麻友

就職部 就職進路課より

本学のキャリア支援では人間的な成長を重視しています。企業への就職、大学院進学などそれぞれに対応する具体的な対策プログラムも設置し、希望の進路の実現に向けて着実にステップアップできるようサポート体制を整えています。

以下、2023年度の卒業生進路状況を含め、本学の支援体制について書かせていただきましたので、ご一読いただければ幸いです。

1. 2023年度卒業生の進路就職状況

2023年度の就職活動は、新型コロナウイルスの影響が依然として残る中、学生・企業双方にとって新たな様式への適応が求められました。オンライン選考の定着や早期化、企業説明会のバーチャル開催などが進み、就職活動のあり方が大きく変化しました。結果として2023年度卒業生の進路決定率は87.9%と昨年の84.6%から3%上回り、進学決定率は96.8%となりました。

本学の各学部の就職進路の内訳について総合社会学部は5コースの学びを活かして卸業・小売業、製造業、情報通信業、宿泊業・飲食サービス業を中心に各業界幅広く決まっています。臨床心理学部は医療・福祉の対人支援・援助的な領域において多く進んでおり、また臨床心理士・公認心理師をめざして大学院に進学しています。こども教育学部は1期生が初めて卒業し、専門職を活かして多くが学校教育・その他の教育、学習支援事業へ進んでいます。特に教員採用試験の合格率は78%と非常に高い実績となっています。各学部のまとめは以下の通りです。

【進路まとめ】

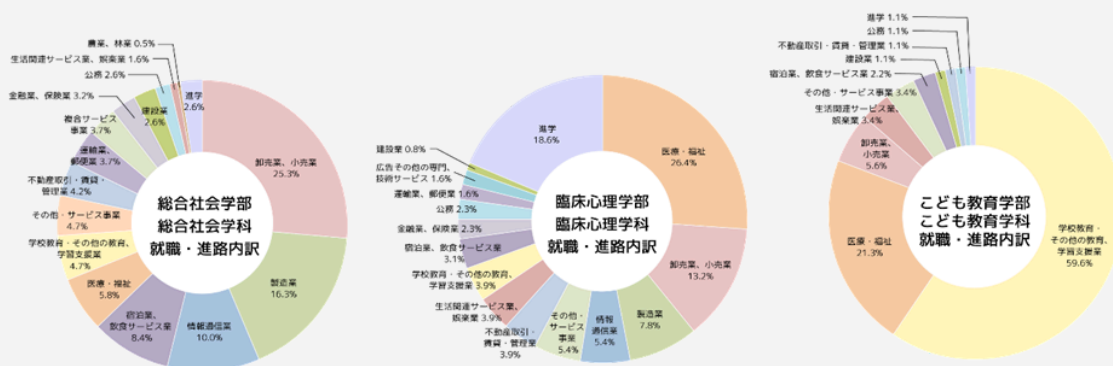
	総合社会学部	臨床心理学部	こども教育学部	計
進路決定率	190/219 (86.8%)	129/151 (85.4%)	89/94 (94.7%)	408/464 (87.9%)
就職決定率	185/194 (95.4%)	105/109 (96.3%)	88/88 (100%)	378/391 (96.7%)
進学決定率	5/5 (100%)	24/25 (96.0%)	1/1 (100%)	30/31 (96.8%)

※進路決定率=進路決定者(就職者+進学者)÷卒業者

※就職決定率=就職決定者÷就職希望者

※進学決定率=進学者÷進学希望者

【就職進路状況】



2. 2024年度 4年次生の就職活動状況

採用スケジュールとして企業側の求人広報活動開始日は2024年3月1日以降、選考活動開始日は6月1日以降となっていますが、実態は3月1日以前から広報活動を行う企業や採用を目的としたインターンシップも増え、選考活動も年々早期化しております。一方で早くに内定が出てなかなか決めきれず、内定を持ったまま就職活動を続けている学生もあり、就活の長期化も特徴となっています。

進路先が決まった学生は大学への報告・届出が必ず必要となりますので、ご自宅でもお声掛けください。本学では8月時点で半数近くの学生が就職活動を続けており、これから公務員や大学院進学等から一般企業への進路変更の学生も含め続きます。大学に届く企業等の求人等もたくさんありますので、まだ進路先が決まっていなくてもご心配なさらず、まずは就職進路課のサポートを受けるようお声掛けください。

就職進路課では学生へのメールやオンラインに加え、対面での進路就職相談や履歴書の添削、模擬面接の実施、求人情報の個別案内等、きめ細かな就職支援を続けておりますので、積極的に就職進路課を活用するようご助言いただけますと幸いです。

3. 2024年度3年次生 秋学期の進路支援について

秋学期から本格的に就職活動の準備がスタートしてきます。就職進路課では就職活動対策として多くの講座やセミナー、イベント等を準備しています。3年次生には積極的に参加いただき、自己分析、業界・企業研究、模擬面接、さらに筆記試験の準備も万全にした状態で、本番に備えてもらいたいと考えています。

公務員志望者は例年4月中旬から9月中旬にかけて職種毎に採用試験が実施されます。最終合格に向け、1年次生からの課外講座(1年次は公務員講座入門編・初級編、2年次は公務員講座中級編・上級編、3年次は公務員講座上級編)を受講するなど計画的な対策が必要です。

教員・保育士志望者は課外講座を受講するとともに【教職・保育福祉職サポートセンター】の積極的利用を促してください。

大学院志望者は募集要項の入手や過去問題の確認、オープンキャンパスに参加等、志望校選びや受験対策講座、ガイダンス等、計画的な対策を支援できるよう随時メールを中心に案内します。

主なプログラムは以下の通りです。

就職進路課実施の主なプログラム

就職ガイダンス

秋は10月から全4回実施します。
就職活動のスケジュールに沿って、自己分析、業界・企業研究、エントリーシート、筆記試験対策、面接対策等をわかりやすく解説します。



KBU就職塾	1クラス30名程度の小集団で就職活動に必要な力を養っていきます。3年次の秋学期に履歴書の作成からグループディスカッション、面接対策まで企業の選考に必要な知識の習得をめざします。大人数の「就職ガイダンス」とは違った「ゼミ・演習」方式で就職活動準備をさらに進めていきます。 
業界・仕事研究セミナー＆合同企業研究フェア	10月から2月にかけて、学内で業界・仕事研究セミナーや合同企業研究フェアを開催します。現場で働く人や人事担当者をお招きし、就職活動に必要な業界・企業・仕事の研究を進めていきます。 
1DAY就活体験	架空の会社を設定して、会社説明会から適性検査、グループディスカッション、面接試験そして内定出しまで一連の流れを体感するプログラムです。 
※課外講座	・公務員対策講座【初級】10月～12月、【上級】9月末～3月・継続) ・一般企業就職希望者向けSPI対策基礎講座(10月～12月) ・教員採用試験突破 上級講座(2月) ・実践英語講座(10月～11月) ・心理系大学院進学対策講座(11月～12月) ※申込は別途案内いたします。

就職進路課では、就職だけではなく進学やその他の進路についても全面的にサポートしています。また学生からの相談対応につきましてはメールの他、WEB 面談での支援も行っております。不安なことがございましたら気軽に就職進路課を訪ねるようご指導いただければ幸いです。引き続き皆様のご理解とご協力をお願い致します。

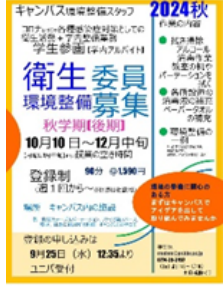
就職部長 兼 就職進路課長 森野 裕之
課長補佐 代崎 拓也
係長 松川美喜子
石橋 美鈴
鈴木 裕翔
室田 由紀

学生部 学生課より

今秋のKBUキャンパスイベント（学生交流機会）・課外活動のご案内

【秋学期の活動報告と今後の予定】

日 程	イベント名	
8月30日（金） ～9月1日（日） 【中止】 台風10号発生により中止。 代替企画を検討中。	<u>還愚（げんぐ）セミナー</u> 於：石川県七尾市 「還愚（げんぐ）」とは、仏教用語で「自分のおろかさ・限界を自覚する」という意味があります。還愚セミナーでは、歩き遍路やボランティア活動を通して、自分の無知・弱さを改めて自覚し、自己の学生生活を考えるきっかけとなることを目的としています。 今年度は、今年元日に発生した能登半島地震の被災地を訪れ、避難所でのボランティア活動や現地の寺院等でのヒアリングを通じて参加者一人ひとりがともいきを再認識してもらうことを意図していましたが、台風の影響により残念ながら中止となりました。	主催：宗教委員会、学生課  ※学生、教職員＋佛教大学教員の参加
9月20日（金） ～	<u>学習・学生生活支援サポートルーム開設</u> 出入り自由（入室予約不要） 静かに過ごす場所として（おしゃべりは控えることを約束）とした自習や休憩の居場所。別途学習サポーター支援あり（予約制）	全学生利用可 サポート＆管理：学生サポーター、学生課
10月～12月 （週3回）	<u>パン・おにぎりの配付</u> 物価高の昨今、食費を抑えがちな学生に朝食を食べて授業を受けてほしいという目的で、パンやおにぎり、野菜ジュースを配布しています。 	所管：学生課 

10月8日～ 隔週・火曜日 昼休みの30分	<u>ランチョンミニセミナー開催</u> 於 サロン・ド・パドマ 資産形成の基礎 NISA／消費者金融トラブル等について学べる機会を設けています。以降、順次開催予定です。	参加対象：学生・教職員 講師担当：三井住友銀行SMBCコンシューマーファイナンス、京都司法書士会など
10月10日（木）	<u>秋学期 衛生（環境整備）委員活動</u> 衛生委員を委嘱された学生による構内消毒作業や、キャンパス環境整備など。（アルバイト業務）	所管：学生課 
11月9日（土） 10日（日）	<u>指月祭</u> テーマ「breaking the limit」 指月祭実行委員会より： 「学生たちに、自由に大学祭を楽しんでもらい、地域の方々に日頃の感謝を伝えるとともに、高校生や近隣の方々に京都文教大学・短期大学の魅力を知ってもらうための指月祭です。」 テーマは「breaking the limit」 様々な限界を超えるという意味が込められています。 テーマカラーは「レッド」 情熱を持ち、新たに挑戦するという意味を込めました。 当日のキャンパスには、学園120周年記念をフューチャーした装飾を取り入れています。」 	大学祭実行委員会主催 （イベント・タレント・ステージ・模擬・情報宣伝・執行部・装飾部） ※学生・一般の方 来場可 ステージ発表・ビンゴ大会、eスポーツ大会（学生自治会主催）、俳優トークショー（学友会主催）、本学卒業生が監督した映画上映会（臨床物語センター主催）、心理臨床センター主催公開講演会、地域（消防・警察、企業協賛）のイベント・模擬店の出店。各種学生の活動報告など

活動の様子は、次号のニュースレターにてご報告いたします。

【春学期のご報告】

日 程	イベント名	
4月～5月	<u>4月1日 新入生歓迎会・クラブ・サークル紹介</u> <u>5月9日 下宿生のつどい</u> 	学生自治会 中央執行委員会 クラブ連合協議会
5月16日～19日	<u>第10回 全日本大学女子硬式野球選手権出場</u>	女子硬式野球部
7月5日	<u>涼暮祭</u> 大学祭（指月祭）のプレイベントとして七夕の季節に開催されてきた「涼暮祭」。今年は地域の小学生、幼児（ご家族）にも参加してもらえるよう放課後スタートとして開始時間を繰り上げた1日開催を企画しました。 同唱館のみを会場とし、小規模ながら、わたあめ、かき氷などの夏の風物を提供、猛暑のなか清涼感をとどけるバーチャルお化け屋敷など、約500名の来場に沸く、夏祭りとなりました。大学祭実行委員会は、熱中症等の対策を講じつつ、参加者との楽しい時間を作りあげました。	主催：大学祭実行委員会  ※学生・一般の方 来場可
7月18日	<u>ランチョンセミナー（熱中症対策）</u>	主催：健康管理センター ※全学生対象
8月18日	<u>小野まつり おの恋おどり</u> 参加：風竜舞伝、文舞蘭（ハートフル賞受賞）	
8月18日～23日	<u>第4回 全日本大学軟式野球選抜大会（長野）</u>	参加：軟式野球部
8月20日～25日	<u>全日本女子硬式野球選手権大会</u>	参加：女子硬式野球部
8月24日	<u>第72回全日本学生弓道選手権大会（主催 全日本学生弓道連盟）</u>	弓道部
9月14、15、29日	<u>2024年度 関西学生バスケットボールリーグ戦</u>	男子バスケットボール部

2024年度 教育後援会奨学金奨学生より

学生生活の充実に向けて – 教育後援会奨学生として –

● 総合社会学科4年次生

私は今回初めて教育後援会奨学生として採用していただきました。

学校生活も残り1年と数ヶ月となる中で一家の大黒柱であった父を亡くしてしまい家計が急変してしまいました。私一人であればアルバイトの収入と母のパートの収入で金銭面での問題はありませんでした。しかし、私には私立大学に入学したばかりの妹と中学校に入学したばかりの妹の二人の妹がいます。妹たちには金銭面で不自由な思いを絶対にさせたくないと考えていたので、このままでは学費を納めることは厳しいことから退学して就職することを覚悟していました。

しかしながら、この度教育後援会奨学生として採用していただいたお陰で家計に少し余裕が生まれて、無事に学費を納めることができました。そのためゼミの先生とゼミの仲間と今でもともに授業を受けることができおり、同じように卒業できると考えると本当に有り難い支援をいただいたのだと痛感致しました。

● 臨床心理学科3年次生

教育後援会奨学生に採用していただきありがとうございました。

私の家庭は、母子家庭で今年小学生になる妹、弟の3人兄弟です。小学校に入学する準備にもお金がかかる上、食べ盛りの2人がいるだけではなく、母も心臓病のため働くことができないため、私自身にお金を使うことが難しく、京都文教大学に入学することが決定した時から、自分で入学金を払い、学費も払っていく必要がありました。また、家賃・食費・光熱費も含め、今まで自分で払ってきました。そのため、かなりアルバイトをする必要があり、学費を払うことに対して後回しになっていました。アルバイトをしていく上で、勉強する時間がなかったり、授業に出れない日もありこれまで、成績が下がったりすることが悩みでもありました。しかし今年度の春学期は、教育後援会奨学金制度を利用することができたため、アルバイトする時間を勉強する時間にできるだけではなく、生活ができるように貯金をすることができました。

さらに、3年次になり、卒業論文や自分の将来を決めていく時期になっていき、自分のやりたいこと、したいことに対して向き合ったり、調べたりして自分が成長する機会を作ることができたことが、私の中で一番の幸せでもありました。自分を大切にしていなかった2年間でしたが、教育後援会奨学生に採用していただけたおかげで、自分が見えていなかった景色や、考えを見つけ出すことができました。

大切なことを教えていただき、また助けていただきありがとうございました。

● こども教育学科4年次生

私は現在、大学に通うため実家から離れ、一人暮らしをしています。幼い頃から母と二人で過ごし、裕福という言葉とはほど遠い環境でした。しかし、母や祖父母のおかげで、心身共に健康に育ち、自分のやりたいこと、進みたい道に進むことができました。

実家から京都は決して近い訳ではなく、母や祖父母の身に何かあった際にはすぐには駆けつけることは難しい状況下です。また、母からすると私が京都の大学に進学し、一人暮らしをするに、はじめは凄く反対をしていました。母は、ただ心配しているから反対をしていたのではなく、金銭面でも難しいと悩んでいたと思います。私も、そのことに気づいていながらも、自分で決めた道に進みたいと思い大学に進学しました。

しかし、コロナの影響と祖父の脳梗塞が重なり、母の勤め先である、祖父母の営んでいた飲食店を閉店することになりました。今までは、母と祖父母からの仕送りや学費面での援助が大きく、バイト漬けの日々を免れ、学業や、友人と共に大学生活を楽しむことができていました。しかし、母や祖父母の家計が急変してからは、バイト漬けの日々を送るようになりました。元々、体調面で不安を抱えていたこともあり、体調を崩し、学校へ通えない日々が続いてしまいました。その時、教育後援会奨学金を知り、応募してみたところ、教育後援会奨学生に選んでいただくことができました。一回の学費を大きく負担していただけることで、バイトと学業、または友人関係の余裕ができ、少しずつ体調も回復することができています。また、現在では実習や、講義の課題、大学院の勉強にそれぞれ時間を取り両立することができています。

末筆ながら教育後援会奨学生に選んでいただき本当にありがとうございました。これから卒業までの半年は、大学生活を充実させ、自分のなりたい夢を叶え、改めて、自分が決めた道を進んでいこうと思います。

社会連携部 フィールドリサーチオフィスより

地域連携・社会貢献の活動の窓口・コーディネート機関として、学生の地域連携・企業連携・高大連携活動や地域の活性化や課題解決を目的とした研究活動の推進、心理臨床センター・産業メンタルヘルス研究所・地域協働研究教育センターの事務運営のほか、近隣に2カ所あるサテライトキャンパスの企画・運営・管理や、宇治市高齢者アカデミーの運営、公開講座やイベント等を実施し、地域と学生・教職員の相互連携、協働活動を支援しています。

1. 京都文教大学 地域連携学生プロジェクト2024の活動報告

京都文教大学では、地域を対象とする学生の自主的活動の中から、地域特性を活かしつつ、成果が期待できる取組みを「地域連携学生プロジェクト」として選定し、支援、助成しています（2007年度～2023年度採択プロジェクト数：延べ106団体）。

本学では、地域に根ざし、地域に学び、地域への貢献を目指す本学の教育研究目標を達成するために、まちづくりや地域おこしなどへの学部、学科を超えた主体的な取組や、実習や演習などの延長にあり、大学での学びを発展的に展開するような取組、地域の住民・行政機関・地元企業・団体等との連携、協働で展開する取組を「地域連携学生プロジェクト」として採択し、学びと地域貢献を両立させる場として本活動を推進しています。

2024年度も、4月から学内にて申請を募り、その後6月に採択選考会を実施しました。審査は、京都文教大学地域協働研究教育センター員と地域連携委員の教員、学外審査員が担当し、採択の可否を決定しました。採択された団体は、1年間活動に取組み、年度末に実施する成果報告会での発表と事業報告書を提出いたします。

2024年度は以下の5団体が採択され、活動に取り組みます。地域の皆様のご協力をはじめ、教育後援会様の多大なご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

○ 宇治☆茶レンジャー

- ◎ 活動期間：2010年度～
- ◎ アドバイザー教員：森 正美（総合社会学部実践社会学科教授）
- ◎ 事業実施地域：宇治市、京都市伏見区、京都府内や府外の茶産地
- ◎ 地域パートナー（連携先）：公益社団法人京都府茶業会議所、京都府茶協同組合、中宇治エリアのお茶屋さん
- ◎ メンバー数：17名
- ◎ 活動内容：急須で淹れる宇治茶の美味しさや楽しさを伝えることを目的に、学生たちが宇治茶を学びそこで得た魅力を発信する取組を行っています。宇治市や伏見区、久御山町等で行われるイベントで、お茶を淹れるコツを伝えるワークショップを多数開催したり、昨年度からは、数種類のお茶を飲み比べその茶種を当てる「みなでお茶当て☆茶レンジ（茶香版）」を行うなど、宇治茶に親しむ催しを行っています。また、毎年実施している「宇治茶スタンプラリー」は、例年1,000名以上の参加者がある人気イベントとなっており、今年度も2月に実施する予定で、協力いただくお茶屋さんと調整を進めています。



○ 商店街活性化隊しあわせ工房CanVas

- ◎ 活動期間：2014年度～
- ◎ アドバイザー教員：片山 明久（総合社会学部総合社会学科教授）
- ◎ 事業実施地域：宇治市（宇治橋通り商店街）
- ◎ 地域パートナー（連携先）：宇治橋通商店街振興組合、宇治市秘書広報課、宇治市観光振興課、公益社団法人宇治市観光協会
- ◎ メンバー数：34名
- ◎ 活動内容：宇治橋通商店街振興組合の公認をいただき、宇治橋通り商店街の活性化活動に取組んでいます。商店街で開かれる「スマイルサタデー（8月）」や「わんさかフェスタ（10月）」では、子どもを対象にしたワークショップやスタンプラリーを企画し、お祭りを盛り上げています。また、宇治市と連携し、市民を対象

にした写真公募展の開催や、現在放送中のNHK大河ドラマ「光る君へ」にあわせ、紫式部や源氏物語をテーマにしたロゲイニング（写真を使ったまちあるきスポーツ）の実施（2024年9月よりスタート）など、商店街のみならず行政や観光協会と連携した取組を進めています。



○ KASANEO

- ◎ 活動期間：2018年度～
- ◎ アドバイザー教員：黒宮 一太（総合社会学部総合社会学科准教授）
- ◎ 事業実施地域：宇治市
- ◎ 地域パートナー（連携先）：宇治市健康長寿部長寿生きがい課、北槇ハーモニ、京都府立京都すばる高校、うじテレビ

◎ メンバー数：22名
 ◎ 活動内容：「ファッション」を通じて幅広い世代が交流できる場を提供することを目的に、結成されたプロジェクトです。着なくなった服（若い頃に着ていた服）を「思い出」と共に、高齢者から提供いただき、それに学生が今の感覚で着こなしを考え、ファッションショーや展示会、雑誌などで紹介していきます。今年度は、地域映像スタジオ「うじテレビ」と連携した取組を始め、定期的に交流を深めるとともに、中宇治にあるうじテレビの拠点を会場に、衣服の譲渡会も複数回実施します。そこで提供いただいた衣服を基に、新たな雑誌の作成と12月には展示会と交流会を兼ねた「KASANEO FES」を実施します。また、子どもや親子を対象にした「タイダイ染めワークショップ」を学内イベントや地域の商業施設などの行事で実施しており、高齢者に限らず、多世代との交流を深めています。



○ Kmink

- ◎ 活動期間：2022年度～
- ◎ アドバイザー教員：黒宮 一太（総合社会学部総合社会学科准教授）
- ◎ 事業実施地域：久御山町
- ◎ 地域パートナー（連携先）：久御山町総務部企画財政課、久御山町内の自治会・町内会、KUMIDAN
- ◎ メンバー数：34名
- ◎ 活動内容：久御山町役場と連携し、まちづくりや自治会活性化に取り組んでいます。自治会や町内会の困りごとについて、学生が住民と一緒に考え解決策を探ったり、町や自治会主催のイベントと一緒に盛り上げる活動を行っています。昨年に引き続き、10月には、京都府立久御山高校と連携し、久御山中央公園にて「くみやまスマイルフェスティバル2024」と題したイベントを企画しています。今年は、これまで関わりのなかった団体や自治会とも関わる機会が多くあり、商業施設でのイベントに参加したり、高齢者を対象にしたスマートフォン教室を行ったりと新しい取り組みにも挑戦しています。



○ lemon tree

- ◎ 活動期間：2023年度～
- ◎ アドバイザー教員：平尾 和之（臨床心理学部臨床心理学科教授）
- ◎ 事業実施地域：宇治市
- ◎ 地域パートナー（連携先）：宇治市健康長寿部長寿生きがい課、宇治市福祉サービス公社、京都府立洛南病院

◎ メンバー数：23 名

◎ 活動内容：宇治市と本学とが協働で取組んでいる「認知症の人にやさしいまち・うじ」を実現するための取組「れもねいど」に関わってきた学生たちが、昨年度立ち上げたプロジェクトです。今年は、4月に積極的な学内広報を行い、新1年生を中心に、メンバー数をぐっと増やしました。新体制で臨む今年度は、地域のイベントにも積極的に参加し、認知症や「れもねいど」についての発信をしています。また、認知症当事者との交流も進めており、当事者から学生とやりたいことを聞き取り、大学内のテニスコートを使いテニス交流会を開いています。



2. 高大連携・接続

本学では、さまざまな高校と連携をし、高校生と大学生が一緒に学び合うことで、相互の気づきや成長を促す機会を設けています。また高校と大学が「今後の社会を担う人材とはどういったものか」「よりよい教育とは何か」を一緒に考え、実践することで高校教育と大学教育の「接続」も進めています。



特に、高校の進路学習や「総合的な探究の時間」などの実践的な学びにおいて、連携を進めています。具体的な取組については、下記の本学特設サイトにて発信しておりますので、是非ご覧ください。

【高大連携・高大接続特設サイト】

3. 企業・行政等の連携

宇治市、京都府山城広域振興局、久御山町、精華町、宇治商工会議所、城陽商工会議所、久御山町商工会、城陽市、京都市伏見区、一般社団法人京都中小企業家同友会と包括連携協定を締結しています。また、本学独自の地元企業、事業所、行政、経済団体等とのネットワーク「京都文教ともいきパートナーズ」には、96事業所（2024年9月現在）の登録があります。まちづくり活動や地域における調査・研究、人材育成、産業振興、子育て支援、生涯学習の推進等、さまざまな分野において連携し、共に「ともいき（共生）キャンパス」の創造に取り組んでいます。

4. 各附置機関 紹介

京都文教大学心理臨床センターは地域に根ざした市民サービスを提供する場として開設された心理相談・研究機関です。また本学の臨床心理学部・臨床心理学研究科の学内実習機関も兼ねており、教員や現場の専門家の指導・アドバイスを受けながら先輩の大学院生がカウンセリングに日々奮闘しております。

京都文教大学地域協働研究教育センターは「地域における本学の教育、研究、社会貢献を一体化し、地域・学生・教職員を巻き込んだ総合的な取組を推進し、その成果を本学の教育活動や地域の発展に還元、寄与することを目的として2014年4月1日「地域協働研究教育センター」として設立され、教育・研究・社会貢献活動に取り組んでいます。

産業メンタルヘルス研究所は、産業メンタルヘルスに臨床心理学の知見を活かすための研究所として、2008年に設立されました。職場のメンタルヘルスに関する調査・研究、プログラムの開発・提供、大学院教育の中で高度専門職業人の育成に取り組んでいます。また、各種講座の開講を通して、臨床心理士・公認心理師をはじめとする産業メンタルヘルス分野の専門職が、職種の違いを越えて研鑽する機会を提供すると同時に、いきいき働く職場をつくるヒントを産業メンタルヘルスの見地から提案する公開講座を企業・行政の人事・総務担当者、経営者向けに開講しています。

5. 公開講座・イベントのご紹介

京都文教大学では学部特性を活かした公開講座をはじめ、京都文教大学教員と自治体職員、団体・企業、地域住民が研究員として参画し地域課題解決に取り組む地域志向研究による公開講座（ともいき講座）や宇治茶の世界文化遺産登録に向けて京都府と共催する「宇治茶文化講座」、他にも本学学生団体によるイベント情報に関するご案内や、教員の講師派遣依頼について、京都文教大学地域協働研究教育センターHP（QRコード参照）にて掲載していますので、是非ご覧ください。

☆ 公開講座・イベントピックアップ ☆

詳細は『京都文教大学地域協働研究教育センターHP「地域連携&イベント」』をご参照ください。

- (1) 「宇治茶文化講座2024 <温故知新～過去から未来へ～>」
コーディネーター：森正美（京都文教大学 学長）

第1回「煎茶と玉露の成立を問い直す」

日程：2024年10月12日(土)10:30-12:00

講師：橋本素子（京都芸術大学非常勤講師・実践女子大学非常勤）

第2回「地方紙にみる昭和前期の京都府茶業と世相（続編）」

日程：2024年11月9日(土)14:30-16:00

講師：中川博勝（精華町教育委員会古文書等調査員）

第3回「『京都府の茶業』と『宇治の春』—普及映画をとおしてみる「宇治茶」—」

日程：2024年12月14日(土)10:30-12:00

講師：坂本博司（宇治市歴史資料館元館長）

※本講座の実施形態は、対面（京都文教学園宇治キャンパス）及びオンデマンド配信

※1回から参加可。参加無料・要申込。

- (2) 京都文教学園120周年記念事業「ともいき（共生）フェスティバル2024」

開催日：2024年11月24日(日) 10:00-15:30

会場：京都文教学園宇治キャンパス

内容：本学学生や教員によるブースをはじめ、地元企業や企業と学生のコラボブース、高校生と学生とのコラボブースを実施。他、「宇治茶文化講座2024 スピンオフブース」として、京都文教学園オリジナル宇治茶「『伴』のお茶淹れ体験」や、京都文教短期大学茶道部による「お抹茶体験」等も行います。

※参加無料（一部有料ブース有り/飲食等の販売有り）・申込不要。

【公開講座・イベント・講師派遣に関するお問い合わせ先】

京都文教大学・短期大学 社会連携部フィールドリサーチオフィス

電話：0774-25-2630 / メール：fro@po.kbu.ac.jp



【京都文教大学地域協働研究教育センターHP】

教務部 大学教務課より

1. 成績発表のお知らせ

本学では、Webポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT（ユニバーサル・パスポート、通称：ユニバ）」にて成績及び学期期間中の個人時間割をパソコンやスマートフォンからいつでも確認することができます。さらに大学からのイベントや講演会等の各種お知らせ機能も追加され、メールでお知らせを受け取ることもできます。

ユニバへのアクセスにはログインID・パスワードが必要になります。ID・パスワードは、入学年度5月頃に本学よりお送りいたしましたハガキに掲載しております。

〈成績・時間割確認方法〉

- ①保護者向けサイト URL goo.gl/C7H7Sm または右QRコードよりアクセスしてください。
- ②保護者向けサイトの「成績・時間割確認の方法」より、ユニバにアクセス、ログインいただけます。
- ③メールのお知らせ機能は、ユニバへログイン後、右上の[setting]をクリック、左上の[メール設定]をクリックし、受信メールアドレスを入力してください。



※成績発表後にいくつかの正当な理由（再試験結果の反映、休学による成績削除など）によって発表された成績が変更される場合があることをご承知おきください。

※スマートフォンの場合は「スマートフォンはこちら」をクリックせず、ID・パスワードを入力してログインしてください。

※パソコン・スマートフォン等のインターネット接続環境をお持ちでない方はご相談ください。個別で郵送させていただきます。

ただし、学期ごとの申し出となります。 春学期成績発表・・・8月下旬 / 秋学期成績発表・・・3月上旬
ご不明な点がある場合は、大学教務課までご連絡ください。

〈お問い合わせ先〉 京都文教大学 教務部 大学教務課

電話：0774-25-2426 / E-mail：educat@po.kbu.ac.jp

2. 教育改善の取り組みについて

今回は、教務課が所管する「教育開発推進センター」という組織について、また当センターが中心となって進めているさまざまな教育改善の取り組みについて、簡単にご紹介させていただきます。

教育開発推進センターは、本年4月に設置し、活動をスタートしたばかりの新しい組織です。昨年度まで設置していたともいき基盤教育センターという組織を発展的に継承するもので、本学全体の教育の質のますますの向上を推進していく役割を担う組織として設置しました。若手～中堅の5名の教員にセンター員として加わってもらい、教職協働でさまざまなことを並行して進めています。

たとえば、現在、特に力を入れて取り組んでいるのは、ICT・オンラインを活用したメディア授業と、対面型で行う授業を有効に組み合わせ、多様なスタイルでの授業実施体制を整備し、学びのユニバーサルデザイン（UDL）を推進することです。すべての学生にとって学びやすく、個別最適な学習環境となることを目指して、準備・試行中です。その他、初年次教育のプログラム開発にも取り組んでいます。大学に入って最初の学びは非常に重要です。大学で学ぶ意義や大学での学び方（アカデミックスキル）などをまずはしっかりと理解・修得してもらうことで、4年間の学びがより有効なものになると考えています。初年次教育は、入学前教育や高大接続教育なども含め、学部学科とも連携しながら、毎年度、見直しを図っています。

また、昨今の世の中で必須とされている、数理・データサイエンスに関する学びについても、文部科学省の認定を受けた授業内容で必修科目としています。学生のみなさんの理解度等を随時確認しながら、丁寧な授業運営に努めているところです。

さらに、キャリア形成支援にかかわる正課授業を1年次から4年次の各学年に応じた内容の科目として配当し、早い段階から広い意味でのキャリア教育を継続的におこなうプログラムとして開発中です。こちらは就職進路課の協力も得ながら取り組んでいます。まだまだ、他にも、キャンパスにおける学習空間や学習支援体制の整備に関すること、あるいは本学の多くの学生が活発におこなっている地域連携等の活動を準正課教育と位置づけ、学生の成長を可視化すること、等々、当センターが担う活動はかなり多岐にわたっています。

以上、教育開発推進センターについてご紹介させていただきました。本学の教育をよりよくするため、センターとして、ひきつづき努力してまいりますので、学生のみなさんには、ぜひ主体的・意欲的に学習に取り組んでいただき、成長していただきたいと思います。保護者のみなさまにも、ひきつづき、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

教務部長／教育開発推進センター長 河本 直樹

図書館だより

宇治キャンパス内には、図書館が3館（普照館・至道館・常照館）あり、約33万冊の蔵書を利用することができます。

学生は、3館それぞれのもつ資料の特徴や館内の雰囲気、開館時間の違いを上手く活用し、日頃の自習や居場所として利用しています。資料の閲覧・貸出だけではなく、電子ブックの充実、DVDの視聴、パソコンの利用、グループ学習での利用など、学生のさまざまな図書館利用に対応するべく環境を整えています。

また、新入生対象図書館ガイダンスやゼミ単位等での図書館利用講習会の実施、学生が大型書店で自ら本を選ぶ企画「学生選書ツアー」の開催、本学教員の著書・推薦図書コーナーや授業の課題・就職活動・資格取得に役立つ図書コーナー等を適時設けるなど、少しでも学生にとって役立つ図書館であるよう日々工夫しています。

さらに所蔵視聴覚資料の紹介を兼ねた映画DVDの上映会やオリジナルしおり作りワークショップなどを開催し、大学・短期大学、学部・学科を超えて楽しめる交流の場となるような企画も展開しています。

これらの様々な情報は、キャンパス内での掲示ポスターだけでなく、図書館情報システムを活用した情報発信に加え、図書館情報誌「あーゆす」、図書館公式「X（旧ツイッター）」などでそれぞれの特徴を生かしたタイムリーな発信にも努めています。年2回発行の図書館情報誌「あーゆす」では、教職員の寄稿だけでなく、学生ライターも募集しており、これまで多くの学生が寄稿してくれています。バックナンバーは、図書館ホームページからご覧頂けますのでぜひご一読ください。今後も学生が安心して利用できるよう図書館運営に努めて参ります。

保護者の皆様におかれましても、地域に開放しております本学図書館をご利用頂きますよう、ご案内申し上げます。

図書館利用証のお申し込み、その他詳細は図書館ホームページをご覧ください。

<https://opac.library.kbu.ac.jp/drupal/>



普照館 1階 図書館



教育後援会より補助を受け、購入、配架したブラウジングエリア

蔵書数（3館合計）	2024年3月31日現在
一般図書	333,639冊
絵本・文庫・新書等	60,770冊
視聴覚資料（DVD・VHS等）	9,105点
雑誌・新聞等	2,724種

図書館長 鵜飼 正樹

保護者の皆様からの声を受け付ける専用メールアドレス

京都文教大学では、教育後援会の皆様からの声を受け付ける専用のメールアドレス（全て半角）がございます。

hogoshanokoe@po.kbu.ac.jp

※ 匿名でのお問い合わせでは対応できないことがあります。お子様の学部・学科・学年・氏名を記載の上、お問い合わせください。

ファミリー制度について

京都文教学園では、本学園で学ばれたみなさまと結ばれた『縁』を大切に、さらにその『縁』をつなぎ広めていきたいと願い、ファミリー制度を設けています。2025年度（令和7年度）入学試験の受験を考えておられる方で、以下に該当する方がおられましたら、是非ご検討ください。

制度の内容	以下に該当する入学生に対し、入学金のうち30,000円を減免します。 本学園の建学の精神に深く賛同する者で、次の(1)～(2)いずれかの条件を満たす者。 (1) 3親等以内に本学園設置校の卒業（園）生がいること。 ※ 3親等の範囲 - 入学生の父母・兄弟姉妹・祖父母・曾祖父母・伯父伯母・叔父叔母 (2) 兄弟姉妹が本学園設置校（園）に在籍していること。
制度対象校	京都文教大学大学院・京都文教大学・京都文教短期大学・京都文教高等学校・ 京都文教中学校・京都文教短期大学附属小学校・京都文教短期大学附属家政城陽幼稚園
申込方法	校種により適用条件・手続き方法が異なります。 お手数ですが当該校にお問い合わせいただくか、ホームページにてご確認ください。
申込期限	入学予定年度の前年度の3月31日【必着】
お問い合わせ	京都文教大学 総務部総務課 電話：0774-25-2400（受付：平日9:00-17:00まで）

事務局お問い合わせ先一覧（受付：平日9:00-17:00まで）

部 署 名	電話番号
総 務 課 教育後援会、ファミリー制度、校友会（同窓会）についてなど	0774-25-2400
教 務 課 授業に関すること 履修登録・時間割・試験・成績、証明書など	0774-25-2426
学 生 課 学生生活に関すること 課外活動・奨学金・休退学・施設物品借用・学生相談・障がい学生支援・留学など	0774-25-2497
フィールドリサーチオフィス 地域連携・公開講座、高大連携に関すること	0774-25-2630
就 職 進 路 課 進路、就職活動、資格・講座など	0774-25-2524
入 試 広 報 課 受験の相談、入試イベント、オープンキャンパス等）に関すること	0774-25-2488
図書館事務室 図書館利用、資料・蔵書について	0774-25-2489
研究支援オフィス 研究支援について	0774-25-2494

2024年度 京都文教大学教育後援会 事業計画

1. 会議・研修

- ・2024年5月18日（土） 第1回 役員会、第29回 総会、
学生報告&交流 京都文教大学での学生生活 ～私の『出会えてよかった「京都文教」』について～
学科別懇談会
- ・2024年11月 進路講演会、学科別懇談会

2. 各種事業

(1) 課外活動補助

- ①課外活動補助
合宿・試合等の顧問引率費、課外活動にかかる経費、共同使用となる物品購入等の費用の補助。
- ②課外活動特別補助
クラブ9団体（1団体上限20万円）への活動費用の補助。
- ③課外活動遠征費
課外活動での遠征にかかる費用補助（バス賃借料等）。課外活動を行う団体・個人に申請者を拡大（交通費等補助）スポーツ・文化・多文化（異文化）交流等の課外活動支援をはかる。
- ④行事企画費
還愚セミナー（災害ボランティア活動）にかかる交通費、宿泊費、消耗品等に対する補助。今年度は、能登地震被災地ボランティア（2泊3日の予定）を目的とする。
また、学外研修・国際交流イベントの学生交通費補助、学生向け消費者教育・消費者金融教育等の学外講師料、消耗品費の補助。
- ⑤元気プロジェクト活動費
学生が自主性と創造性を発揮し大学を活性化するプロジェクト「京都文教元気プロジェクト」の活動費用を補助。1団体（イーサポ：震災支援活動学生プロジェクト）へ補助。
- ⑥地域連携学生プロジェクト
地域で学び、地域に役立つ視点と地域の実情を学び、地域社会に貢献できる能力を習得するため、京都府南部地域を中心としたフィールドでアドバイザー教員・担当スタッフの支援のもと学部・学科を超えた学生が自主的活動をする課外プロジェクトにかかる費用補助。
今年度は5団体〈宇治☆茶レンジャー、商店街活性化隊しあわせ工房 CanVas、KASANE（かさねお）、KminK、lemon tree〉への補助。また、学生が地域をテーマにした課外活動を行う際の活動費への補助。
近隣の小学校や京都府下の中学校、高等学校（修学旅行生）より、大学見学や宇治（平等院）での研修活動の際の学生スタッフ活動経費補助、広報物の冊子等作成用ソフト利用料への補助。
浄土宗門関係大学である東京圏の淑徳大学、埼玉工業大学との単位互換制度等における東京圏ならびに京都で実施される学外での宿泊や移動を伴うプログラムへの活動補助費。（1人当たり3万円×10名補助）、「全国まわづくりカレッジ2024 in 伊勢」参加旅費等への補助。

(2) 就職進路支援

- ①学習支援室運営費
学習支援室チューター（学生を指導する講師）人件費の補助。
- ②課外講座開講費
就職進路につながる資格講座、公務員講座（入門・初級・中級・上級）、就職関連課外講座、大学院進学対策講座等の進路支援講座の費用補助。
- ③課外講座、検定試験受験料及びテキスト代取扱経費補助
学内検定受験料、それにかかるテキスト代等への補助。
漢字検定（年1回）・国内旅行業務取扱主任試験（年1回）・公務員講座など。
- ④就職活動支援
就職支援BOOK（大学生の就活編、保護者編）購入の補助。
- ⑤就職キャリア支援・企業コーディネーター雇用補助
学生相談カウンセラーの業務委託補助。
- ⑥S A（スチューデント・アシスタント）雇用費
2年次生以上の在学生在が授業内で下級生に対して、教員指導の下グループワークの進行補助等の業務を行い、社会人基礎力の養成に資する取り組みへの費用補助。
- ⑦海外・国内プログラム参加助成金
学生がグローバル感覚、異文化理解力、リーダーシップ力等を身につけ、社会人基礎力の向上を図る活動として、海外・国内で活動するプログラム（学生サマースクール、ウインタースクール等）に参加する費用補助。
- ⑧「京都文教ともいきパートナーズ」事業のコーディネート業務委託補助
企業開拓やコーディネートをする企業コーディネーターの人件費の補助。「京都文教ともいきパートナーズ」業務、学生のキャリア支援に係る業務への補助。
- ⑨アントレプレナーシップ育成活動補助
近隣地域イベントにおける学生の販売体験（年3回予定）、高校等（京都府北部等の遠方含む）における活動発表等にかかる交通費、消耗品費等に対する補助。

(3) 学生生活支援

- ①学生相談室補助
学生相談室カウンセラーの人件費を補助。
- ②トレーニングルーム運営費
学内トレーニングルームにおいて、効果的なトレーニングの指導および管理等を行う常駐のトレーナー配置、トレーニングルーム機器の保守・修繕等に係る費用補助。
- ③災害・安全対策費
災害対策の一環として、非常用保存食・飲料水等の購入費用補助。緊急時に備えて在学生分を学内で保存、未使用分の一部を今年度の卒業生へ記念品として贈呈する。

また、学内のバイク駐輪場出入口の誘導、向島駅のスクールバス乗り場誘導、学内見回り等の安全対策にかかる費用の一部に対する補助。

(4) 教育環境整備補助

① 学生教養図書購入費

学術書以外で、学生の教養となる一般図書・雑誌購入にかかる費用の補助。

② P C ルーム運営費補助

P C ルームサポートスタッフの業務委託費の補助。

(5) 奨学費

① 京都文教大学教育後援会奨学金

家計急変による学費支弁困窮学生へ給付を行う就学支援制度。

② 留学生支援費

本学の提携先である海外の大学（予定：米国、カナダ、中国、韓国に所在する大学）への留学や研修参加に対する費用補助。

(6) 式典・行事補助

① 卒業式関連経費

卒業式終了後に実施される記念祝賀会にかかる費用補助。祝賀会が中止となった場合は記念品を贈呈。

② 卒業記念品

卒業生に贈呈する卒業アルバム代に対する補助。

(7) 教育後援会運営費

教育後援会の運営に直接かかる経費に対する補助。（役員会の会議費、印刷費、送料等）

(8) 予備費

※特別積立金（毎年100万円積立）は今年度もなし。

3. 特別積立金

プロジェクト学習・活動支援スペース整備事業

昨年度実施できなかった、学生のプロジェクト学習やその活動に必要なスペースをつくるための設備購入にかかる補助。学生厚生施設(恵光館)での活動も鑑み、施設整備の補助。

※工事費用は大学の経費から支出予定。

※2024年度が学園創立120周年記念の年となるため、教育後援会からの「学園創立120周年事業」として特別積立金により実施する。

以上

2024年度 第1回 京都文教大学教育後援会 役員会 議事録

1. 日 時 2024年5月18日（土） 午前11時～12時

2. 場 所 京都文教大学 常照館1階 第2会議室

(1) 会長挨拶 (勝田会長代理)

(2) 学長挨拶 (森 正美・名誉会長)

(3) 出席者紹介 (上野副会長)

(4) 近況報告 資料等をもとに上野副会長より大学の近況報告があり、2024年11月24日（日）「京都文教学園120周年記念式典」と「ともいきフェスティバル」について、学長より案内があった。

(5) 2023年度 事業報告（案）・決算報告（案）（押領司会計）
配布資料に従って事業報告（案）と決算報告（案）が行われた。

(6) 2023年度 監査報告

監事より決算が正しく行われているとの監査報告があり、事業報告と合わせて拍手により承認された。

(7) 役員選出（敬称略）

【会長、副会長】教育後援会規約第8条および第9条に従って役員会で選出された方の承認

会長【新任】勝田 麻友 副会長【新任】片桐 綾子・【再任】上野 泰弘（事務局長）

【監 事】教育後援会規約第8条および第9条に従って役員会で選出された方の承認

【再任】中本 智子・【再任】西尾 有紀

【幹 事】教育後援会規約第9条2項により会長より委嘱

【再任】北村 隆信・【再任】佐藤 綾・【再任】牛濱 真

【会 計】教育後援会規約第9条3項により事務局長より推薦された2名に会長より委嘱

【再任】押領司 哲也（総務部長）・【再任】藤村 典子（総務課係長）

(8) 新旧役員紹介（上野副会長）

役員名簿参照。学校法人京都文教学園の評議員には勝田会長が選任される旨、報告された。

(9) 2024年度 事業計画（案）、予算（案）（押領司会計）

配布資料に従って事業計画（案）、予算（案）について説明と提案があり、審議の結果、承認された。

以上を持って議事を終了し、今年度、必要であれば役員会を開催することが確認され、12時に閉会となった。

以上



2024年度 京都文教大学教育後援会 総会

1. 日 時 2024年5月18日（土） 午前11時～12時
2. 場 所 京都文教大学 常照館1階 第2会議室
 - (1) 会長挨拶 （勝田会長代理）
 - (2) 学長挨拶 （森 正美・名誉会長）
 - (3) 出席者紹介（上野副会長）
 - (4) 近況報告 資料等をもとに上野副会長より大学の近況報告があった。
 - (5) 2023年度 事業報告（案）・決算報告（案）（押領司会計）
配布資料に従って事業報告（案）と決算報告（案）が行われた。
 - (6) 2023年度 監査報告
監事より決算が正しく行われているとの監査報告があり、
事業報告と合わせて拍手により承認された。
 - (7) 役員選出（敬称略）
 - 【会長、副会長】教育後援会規約第8条および第9条に従って役員会で選出された方の承認
会長【新任】勝田 麻友 副会長【新任】片桐 綾子・【再任】上野 泰弘（事務局長）
 - 【監 事】教育後援会規約第8条および第9条に従って役員会で選出された方の承認
【再任】中本 智子・【再任】西尾 有紀
 - 【幹 事】教育後援会規約第9条2項により会長より委嘱
【再任】北村 隆信・【再任】佐藤 綾・【再任】牛瀨 真
 - 【会 計】教育後援会規約第9条3項により事務局長より推薦された2名に会長より委嘱
【再任】押領司 哲也（総務部長）・【再任】藤村 典子（総務課係長）
 - (8) 新旧役員紹介（上野副会長）
役員名簿参照。学校法人京都文教学園の評議員には勝田会長が選任される旨、報告された。
 - (9) 2024年度 事業計画（案）、予算（案）（押領司会計）
配布資料に従って事業計画（案）、予算（案）について説明と提案があり、審議の結果、承認された。



以上を持って議事を終了し、14時に閉会となった。

総会終了後、学生報告＆交流「京都文教大学での学生生活～私の『出会えてよかった「京都文教」』について～」と題して、2023年度に教育後援会の支援を受けた学生（課外活動の遠征補助、地域連携学生PJ、留学体験談など）による教育後援会の皆様への御礼を兼ねた報告会を開催した。

報告会終了後、参加された教育後援会会員の皆様と報告会参加学生との「グループ交流会」を行い、参加しようと思った理由や実際に体験してどうだったかなど、直接、学生からの生の声を聞く機会を持ち、盛会の内に終了した。

休憩をはさみ、各学科別懇談会会場に移動の後、学科別懇談会を開催し、懇談を通じて学科内容の説明と学びや進路の質問等に教職員が直接答える場を持ち、閉会した。

以上

2024年度 京都文教大学教育後援会 役員名簿

役 職	氏 名	備 考	役 職	氏 名	備 考
名誉会長（再）	森 正美	学長	会 長（新）	勝田 麻友	臨床心理学科（4年次）
副会長（新）	片桐 綾子	臨床心理学科（1年次）	副会長（再）	上野 泰弘	事務局長
幹 事（再）	北村 隆信	こども教育学科（3年次）	幹 事（再）	佐藤 綾	総合社会学科（3年次）
幹 事（再）	牛瀨 真	臨床心理学科（3年次）	幹 事（新）	古川 マキ	臨床心理学科（1年次）
監 事（再）	中本 智子	総合社会学科（4年次）	監 事（再）	西尾 有紀	臨床心理学科（3年次）
会 計（再）	押領司哲也	総務部長	会 計（再）	藤村 典子	総務課係長

2024年度 京都文教大学 役職者一覧

役 職	氏 名	役 職	氏 名	役 職	氏 名
学長	森 正美	副学長（教学・I R推進担当） 教務部長 教育開発推進センター長	河本 直樹	大学学生部長	林 雅清
健康管理センター長 臨床物語学研究センター長	平尾 和之	臨床心理学研究科長	濱野 清志	総合社会学部長	黒宮 一太
総合社会学科長	澤 達大	実践社会学科長	舛井 雄一	臨床心理学部長	香川 克
臨床心理学科長	井上 嘉孝	こども教育学部長	本山 益子	こども教育学科長	橋本 祥夫
図書館長 ともいき研究推進センター長	鶴飼 正樹	心理臨床センター所長 学生相談室長	松田 真理子	産業メンタルヘルス 研究所長	中島 恵子
地域協働研究教育センター長	松田 美枝				

2023年度 京都文教大学教育後援会 決算報告

2023(令和5)年度 京都文教大学教育後援会 決算書

収入総額 47,698,981 円
支出総額 40,051,875 円
繰越金 7,647,106 円

収入の部				
科 目	予算額	決算額	差異	備 考
1 会費	36,480,000	37,260,000	△ 780,000	※20,000×1,863名分
2 受取利息	200	241	△ 41	上・下半期 普通預金利息
3 雑収入	0	6,000	△ 6,000	卒業アルバム購入
4 繰越金	10,432,740	10,432,740	0	2022年度 繰越金
計	46,912,940	47,698,981	△ 786,041	

(単位:円)

支出の部				
科 目	予算額	決算額	差異	備 考
1 課外活動補助	5,215,000	4,272,875	942,125	課外活動補助 課外活動特別補助 課外活動速征費 行事企画費 元氣プロジェクト活動費 地域連携学生プロジェクト
2 就職進路支援	14,400,000	11,332,190	3,067,810	学習支援室運営費 課外講座開講費 学内検定実施補助 就職活動支援 (学生相談カウンセラー・企業コーディネーター補助) S A雇用費 国内プロジェクト参加助成 企業コーディネーター雇用補助 (京都文教ともいきパートナーズ事業) 対流促進事業短期プロジェクト
3 学生生活支援	6,650,000	4,772,670	1,877,330	学生相談室補助 トレーニングルーム運営費 災害・安全対策費
4 教育環境整備補助	5,600,000	5,647,427	△ 47,427	学生教養図書購入費 PCルーム運営費補助
5 奨学費	10,200,000	10,180,000	20,000	就学支援給付金 留学生支援費
6 式典・行事補助	3,300,000	3,365,520	△ 65,520	卒業式関連経費 卒業記念品
7 教育後援会運営費	1,070,000	481,193	588,807	会議費 印刷費 事務費 雑費
8 予備費	477,940	0	477,940	予備費
計	46,912,940	40,051,875	6,861,065	

令和6年3月31日 上記のとおり相違ないことを認めます。

京都文教大学教育後援会

監事 中本 智子 ㊟

監事 西尾 有紀 ㊟

2023(令和5)年度 京都文教大学教育後援会 特別積立金決算書

収入総額 11,989,364 円
支出総額 - 円
繰越金 11,989,364 円

収入の部				
科 目	予算額	決算額	差異	備 考
2023(令和5) 特別積立金	0	0	0	
利 息	1,000	204	796	定期預金利息
繰越金	11,989,160	11,989,160	0	2022(令和4)年度繰越金
計	11,990,160	11,989,364	796	

(単位:円)

支出の部				
科 目	予算額	決算額	差異	備 考
プロジェクト学習・活動支援スペース 整 備 事 業	6,000,000	0	6,000,000	設備費
計	6,000,000	0	6,000,000	

令和6年3月31日 上記のとおり相違ないことを認めます。

京都文教大学教育後援会

監事 中本 智子 ㊟

監事 西尾 有紀 ㊟

2024年度 京都文教大学教育後援会 予算報告

2024(令和6)年度 京都文教大学教育後援会 予算書

収入の部					(単位：円)
科 目	予算額	前年度予算額	差 異	備 考	
1 会費	34,900,000	36,480,000	△ 1,580,000	②20,000×1,745名分 ※2024年6月1日現在の学生数1,818名に対し、休学・退学者による減収を見込みの8割の人数で設定	
2 受取利息	200	200	0		
3 繰越金	7,647,106	10,432,740	△ 2,785,634	2023年度 繰越金	
計	42,547,306	46,912,940	△ 4,365,634		
支出の部					
科 目	予算額	前年度予算額	差 異	備 考	
1 課外活動補助	6,886,250	5,215,000	1,671,250	課外活動補助 課外活動特別補助 課外活動遠征費 行事企画費 元気プロジェクト活動費 地域連携学生プロジェクト	
2 就職進路支援	9,958,000	14,400,000	△ 4,442,000	学習支援室運営費 課外講座開講費 課外講座、検定試験受験料及びフィクスト代取扱経費 就職活動支援 就職サポート支援（学生相談センター業務委託補助） SA雇用費 海外・国内プログラム参加助成 企業コーチ・インター雇用補助（京都文教ともいきパートナーズ事業） フットボール・トレーニング 育成活動補助 対流促進事業短期プログラム	
3 学生生活支援	6,500,000	6,650,000	△ 150,000	学生相談室補助 トレーニング室運営費 災害・安全対策費	
4 教育環境整備補助	5,500,000	5,600,000	△ 100,000	学生教養図書購入費 PCルーム運営費補助	
5 奨学金	9,500,000	10,200,000	△ 700,000	就学支援給付金 留学生支援費	
6 式典・行事補助	3,500,000	3,300,000	200,000	卒業式関連経費 卒業記念品	
7 教育後援会運営費	680,000	1,080,000	△ 400,000	会議費 印刷費 事務費 雑費	
8 予備費	23,056	477,940	△ 454,884	予備費	
計	42,547,306	46,922,940	△ 4,375,634		

2024(令和6)年度 京都文教大学教育後援会 特別積立金予算書

収入総額 11,990,364 円
支出総額 9,000,000 円
繰越金 2,990,364 円

収入の部					(単位：円)
科 目	予算額	前年度予算額	差 異	備 考	
2024(令和6)特別積立金	0	0	0		
利 息	1,000	1,000	0	定期預金利息	
繰越金	11,989,364	11,989,160	204	2023(令和5)年度繰越金	
計	11,990,364	11,990,160	204		
支出の部					
科 目	予算額	前年度予算額	差 異	備 考	
プロジェクト学習・活動 支援スペース整備事業	8,000,000	6,000,000	2,000,000	設備費	
トレーニングルーム整備事業	1,000,000	0	1,000,000	時習館内トレーニングルームのマシン入替（リース契約） 搬入・廃棄費用	
計	9,000,000	6,000,000	3,000,000		

京都文教大学教育後援会規約

第 1 章 総 則

- (名称)
第 1 条 本会は、京都文教大学教育後援会と称する。
(本部)
第 2 条 本会は、京都文教大学内に置く。
(目的)
第 3 条 本会は京都文教大学（以下「大学」という。）の方針に則り本学の発展に寄与するとともに、大学と学生及び家庭との連携を密にし、教育事業を援助することを目的とする。
(事業)
第 4 条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 大学の教育、研究に対する協力
(2) 大学の教育研究環境の整備に対する協力
(3) 学生の研究助成並びに経済援助
(4) 会員の親睦
(5) その他本会の目的達成に必要な事業

第 2 章 会員、会費及び事業費

- (会員)
第 5 条 本会は次の会員をもって組織する。
(1) 正 会 員 大学に在学する学生の保護者又はこれに代わる者
(2) 特別会員 本会の趣旨に賛同する者で、役員会の推薦に基づき総会で承認された者
(会費)
第 6 条 正会員は次の会費を納入するものとする。
年会費 年額20,000円 春・秋学期の半期ごとに10,000円を納入する。
(事業費)
第 7 条 本会の事業費は、会費、寄附金その他の収入をもって充てる。

第 3 章 役 員

- (役員)
第 8 条 本会に次の役員を置く。
(1) 会 長 1
(2) 副会長 2名
(3) 幹 事 若干名
(4) 監 事 2名
(5) 会 計 2名
2. 副会長のうち1名は、大学事務局長がこれに当る。
大学事務局長不在の場合は、総務部長がこれに当る。
(役員の選出)
第 9 条 会長、副会長及び監事は、役員会において選出し、総会の承認を得るものとする。
2. 幹事は会長が委嘱する。
3. 会計は、大学事務局職員の中から大学事務局長の推薦にもとづき会長が委嘱する。
大学事務局長不在の場合は、総務部長の推薦にもとづき、会長が委嘱する。
(任期)
第 10 条 会長の任期は2年とし、その他の役員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
2. 役員に欠員が生じた場合の補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。
(職務)
第 11 条 会長は、本会を代表し、これを掌理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその任務を代行する。
3. 幹事は役員会に出席し、本会の運営及び審議に参画する。
4. 監事は、会計を監査する。
5. 本会の事務は大学事務局に委嘱する。
(名誉会長)
第 12 条 本会に名誉会長を置く。
2. 名誉会長は大学学長とする。
(顧問)
第 13 条 本会に顧問若干名を置くことができる。

第 4 章 会 議

- (総会)
第 14 条 本会の定期総会は、毎年1回5月に開催するものとし、必要がある場合臨時総会を開催することができる。
2. 総会は、会長がこれを招集し、その議長となる。
3. 総会の議決は、出席会員の過半数の同意によって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。
第 15 条 定期総会においては、次の事項を附議する。
(1) 予算及び事業計画の議決並びに決算及び事業報告の承認
(2) 会長、副会長及び監事の承認
(3) 本規約の改廃
(4) その他役員会が決定した重要事項
(役員会)
第 16 条 役員会は、第8条の役員をもって組織する。
2. 役員会は、必要の都度会長が招集し、議長となる。
3. 役員会は、役員の過半数の出席をもって成立するものとし、議決は出席役員の過半数の同意によって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。
第 17 条 役員会は、次の事項について審議する。
(1) 予算案及び事業計画、決算及び事業報告
(2) 会長、副会長及び監事の選出
(3) 臨時総会に関する事項
(4) 特別会員の推薦
(5) 本規約の改廃に関する事項
(6) 総会に提出する議案
(7) その他本会運営上必要な事項

第 5 章 雑 則

- (会計年度)
第 18 条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月末日に終る。
(規約の改廃)
第 19 条 この規約の改廃は、役員会の議決を経て総会の承認により行う。
付則 この会則は、平成 8 年4月1日から施行する。
この会則は、平成28年4月1日から施行する。

京都文教大学教育後援会奨学金規程細則

- (趣旨)
第 1 条 この細則は、京都文教大学教育後援会奨学金規程に基づき、その施行に関し必要な事項を定めるものとする。
(経済的支援を目的とした奨学金)
第 2 条 本条から第13条は、不測の事態が生じたために、学費の支弁が著しく困難となり、退学又は休学を余儀なくされる学生に対し、教育後援会の支援により、学業の継続を支援することを目的とする奨学金について定める。
(給付金額及び期間)
第 3 条 この奨学金の給付金額は、当該学期の授業料及び教育充実費相当額の2分の1とする。
2. 給付期間は、春学期又は秋学期の半年単位とし、引き続き奨学金を希望する者は、改めて所定の手続きをしなければならない。
(給付対象)
第 4 条 この奨学金は、京都文教大学学部生（科目等履修生・研究生を除く）で、在学中に選考基準に該当する者に限り、2回を限度に給付の対象とする。ただし、最終修業年限を超過した者は原則として対象としない。
(採用数)
第 5 条 奨学生の採用数は教育後援会が毎年度定める寄付金の範囲内で決定する。
(募集)
第 6 条 受付締切日は各学期の授業料及び教育充実費等の徴収日に間に合うよう別途定める。
(申請手続)
第 7 条 奨学金を希望する者は、次の書類を学生課に提出しなければならない。
(1) 志願書（所定の書式）
(2) 源泉徴収票又はこれに準ずる書類
(3) 不測の事態を証明できる書類
(選考基準)
第 8 条 この奨学金給付の選考基準を以下の通りとする。
家計急変の事由が生じた事により、その後1年間の家計基準が給与所得者については841万円以下、給与所得者以外については355万円以下であることが確実となる者。ここでいう「家計基準」の額とは、学生本人の父母又はこれに代わって家計を支えている者（主たる家計支持者一人）の収入金額をいい、「給与所得者」にあつては源泉徴収票の支払金額とし、「給与所得者以外」にあつては確定申告等の所得金額とする。
2. 困窮度、学力・人物・健康については日本学生支援機構の選考基準による。
(選考)
第 9 条 選考は、学生課で書類を審査の上、学生委員会の委員が直接面接を行い、事情を聴取し、人物・健康・学費支弁の困難度・学業成績等からその資格を検討し、学生委員会の審議を経て、学長が決定する。
(通知及び給付)
第 10 条 採用が決定した者に対しては、本人及び連帯保証人に文書でもって通知する。
2. 奨学生は次の書類を提出する。
(1) 誓約書（付、受領書）
3. 奨学金の給付は授業料及び教育充実費との相殺をもって行う。
(給付取消)
第 11 条 奨学生が、次の各号に該当するときは、給付決定を取り消すことができる。
(1) 奨学生が、給付を必要としなくなった場合。
(2) 退学・除籍により学籍を失った場合。
(3) 停学その他処分を受けた場合。
(奨学金の返還)
第 12 条 申請書類等に虚偽の記載事実が認められた場合は、給付を取り消し、奨学金の返還を求めることができる。
(所管)
第 13 条 第2条から第12条に関する事務は、学生部学生課が行う。
(留学支援を目的とした奨学金)
第 14 条 本条から第24条は、留学支援を目的とする奨学金について定める。
(留学の種類)
第 15 条 この規程の対象となる留学形態は以下の通りとする。
(1) 交換留学 本学在学中の身分のまま、交換留学協定先の大学にて1あるいは2学期間を学修する留学
(2) 短期留学 概ね3週間から1ヶ月までの語学研修と現地文化体験を目的とした留学
(3) 派遣留学 本学を休学し、協定先の大学にて1あるいは2学期間を学修する留学
(対象校・給付金額・採用人数等)
第 16 条 この奨学金の対象校・給付金額・採用人数等は、以下の通りとする。
- | | 交換留学 | 短期留学 | 派遣留学 |
|-------|---------------|----------------------------|----------|
| 対 象 校 | 湖西大学校 | トア・リ・リ・ア・ア・ア大学、ザ・ル大学、湖西大学校 | リッパード大学 |
| 給付金額 | 上限20万円 | 上限10万円 | 上限30万円 |
| 採用人数 | 教育後援会が毎年定める範囲 | | |
| 応募期限 | 渡航日の1ヶ月前 | 帰国後の翌々月中 | 渡航日の1ヶ月前 |
- 第 17 条 この奨学金は、京都文教大学学部生（科目等履修生・研究生を除く）で、在学中に次条選考基準に該当する者に限り、1回を限度に給付の対象とする。ただし、最終修業年限を超過した者は原則として対象としない。
(選考基準)
第 18 条 この奨学金給付の選考基準を以下の通りとする。
(1) 交換留学 現地の言語・文化に深い興味関心を有し渡航中は訪問国の人々と交わるとともに、訪問国の伝統と文化を尊重できる学生であること。加えて、現地教員・現地学生・ルームメイトと良好な関係を築き、真剣に学修に励むことが事前面接時に確認できること
(2) 短期留学 現地教員・クラスメート・ホームステイ先の家庭と良好な関係を築き学修に励んだ後、修了証書を得るとともに、帰国後に適切な内容の参加報告書を提出できる者
(3) 派遣留学 現地の言語・文化に深い興味関心を有し渡航中は訪問国の人々と交わるとともに、訪問国の伝統と文化を尊重できる学生であること。加えて、現地教員・現地学生・ルームメイトと良好な関係を築き、真剣に学修に励むことが事前面接時に確認できること
(申請手続)
第 19 条 奨学金を希望する者は、次の書類を学生部国際交流オフィスに提出しなければならない。
(1) 申請用紙
(2) 留学に係る志望動機を記した書類
(3) 入学許可書（交換留学・派遣留学のみ）
(選考)
第 20 条 選考は、国際交流委員会の委員が個別面接を行い、留学動機等を精査後、国際交流委員会の審議を経て、学長が決定する。
(通知及び給付)
第 21 条 採用が決定した者に対しては、本人に文書でもって通知する。
2. 交換留学及び派遣留学の奨学生には次の書類を提出させる。
(1) 誓約書（付、受領書）
(2) 振込記録書
(給付取消)
第 22 条 奨学生が、次の各号に該当するときは、給付決定を取り消すことができる。
(1) 奨学生が、留学先予定受入期間の終了を待たず帰国したとき。
(2) 奨学生が、現地受入校により退学・除籍の処分を受けたとき。
(3) 真剣に学修に励んだことが、帰国後の報告書、あるいは現地指導教員からの報告に認められないとき。
(4) 退学・除籍により学籍を失った場合。
(5) 停学その他処分を受けた場合。
(奨学金の返還)
第 23 条 申請書類等に虚偽の記載事実が認められた場合は、給付を取り消し、奨学金の返還を求めることができる。
(所管)
第 24 条 第14条から第23条に関する事務は、学生部国際交流オフィスが行う。
(改廃)
第 25 条 この細則の改廃は、教育後援会役員会の意向に基づき、当該委員会、教授会及び大学運営会議の審議を経て、学長の意向を受けて理事長の裁決により行う。
- 付則 この細則は、平成26年4月1日から施行する。
平成27年4月1日改正(第9条・第13条・第20条・第24条・第25条)
平成29年4月1日改正(第16条・第19条・第20条・第24条)
平成31年4月1日改正(第19条・第24条)
令和 4 年4月1日改正(第10条・第16条)